

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和6年度農作物病害虫発生予察情報について

令和6年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

令和6年度農作物病害虫発生予報第9号

令和6年9月2日
徳島県

I. 普通作物

普通期水稻

穂もち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.8%、発病穂率が0.1%と、平年(20.3%、0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期に防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、発病度が0.5と、平年(66.6%、5.5)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.2%、株当たり寄生虫数が0.11頭)。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場における発生状況を早期に確認し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う。

- (2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に薬剤防除を行う。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ等) (令和6年8月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の水田における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、20地点のうち14地点で生息を確認した。捕獲地点率が70.0%と、平年(44.9%)に比べてやや高いが、地点当たりの捕獲虫数は2.3頭と、平年(1.7頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 周辺雑草や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

II. 果樹

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.7%、発病果率が0.0%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 9~11月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(55.0%)並の発生であるが、寄生果率は0.8%と、平年(3.2%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 密度の高い園では、2回以上の防除が必要である。

果樹カメムシ類(令和6年8月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、被害果の発生圃場率が100%、被害果率が7.3%と、平年(8.3%、0.1%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 園内を巡回し周辺からの飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等) (令和6年8月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬のカキにおける巡回調査では、被害果の発生圃場率が100%、被害果率が7.3%と、平年(8.3%、0.1%)に比べて高い。
- (2) 8月第1半旬から第5半旬の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが90頭と、平年(723頭)に比べて少なく、チャバネアオカメムシが1,143頭と、平年(1,133頭)並の誘殺数であった。一方で上板町では、ツヤアオカメムシが285頭と、平年(136頭)の2.1倍、チャバネアオカメムシが1,784頭と、平年(363頭)の4.9倍誘殺された(表1)。

表1 果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年			2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
8	1	47	9	125	104	0	6	8	1	368	0	98	301	8	16
	2	13	46	106	74	7	14		2	265	8	125	250	28	30
	3	14	2	132	65	7	21		3	188	22	132	397	19	46
	4	9	65	126	28	5	21		4	182	66	167	412	28	52
	5	7	60	75	14	5	17		5	140	86	168	424	29	54
	6		54	58		16	22		6		161	177		52	58
9	1		11	41		9	17	9	1		72	106		87	62
	2		21	61		15	18		2		62	159		49	44

- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大いなので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が51.1%、発病葉率が4.9%)。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、1葉当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(25.1%、0.0頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているの、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が7.8%と、平年(36.5%、2.6%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(36.4%)並の発生であるが、寄生葉率は0.3%と、平年(0.9%)に比べてやや低い。また、被害果実については、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.2%、被害果率が0.6%)。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

秋冬ネギ

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(45.6%)に比べて高いが、被害度は2.4と、平年(2.0)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、寄生株率が4.2%と、平年(61.1%、5.7%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

- (3)ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4)フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.1と、平年(61.1%、7.0)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

冬春イチゴ(育苗期)

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が53.8%と、平年(16.9%)に比べて高く、発病株率は2.3%と、平年(1.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷みを防ぎ、通過後は必ず薬剤で防除する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が69.2%と、平年(36.4%)に比べてやや高いが、寄生株率は7.8%と、平年(5.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年並に推移している(図1)。
- (2) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

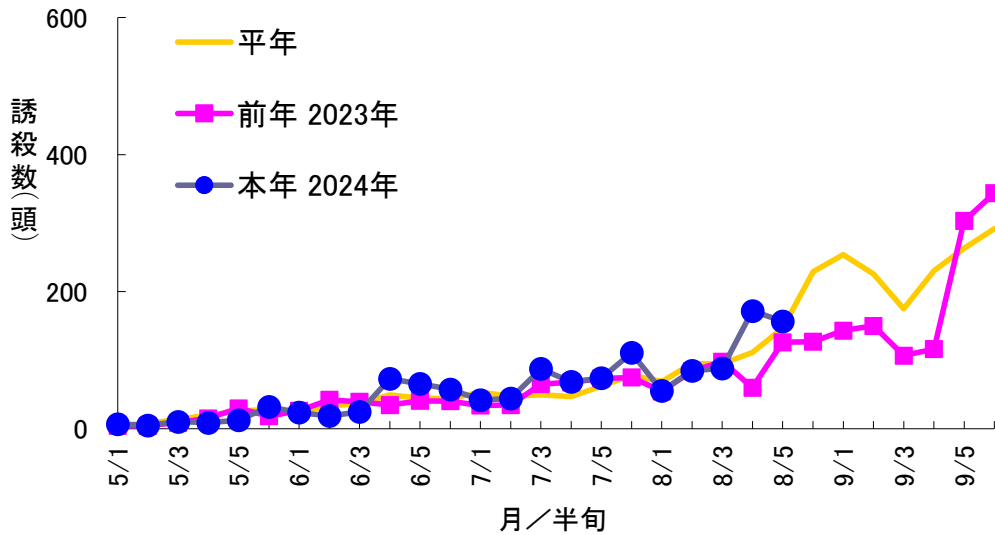


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市・石井町・阿波市・吉野川市・東みよし町・三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、8月第1半旬から第5半旬まで1,114頭と、平年(672頭)の1.7倍誘殺された(図2)。
- (2) 8月第6半旬の秋冬ネギにおける巡回調査では、発生圃場率が66.7%、寄生株率が4.2%と、平年(61.1%、5.7%)並の発生である。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

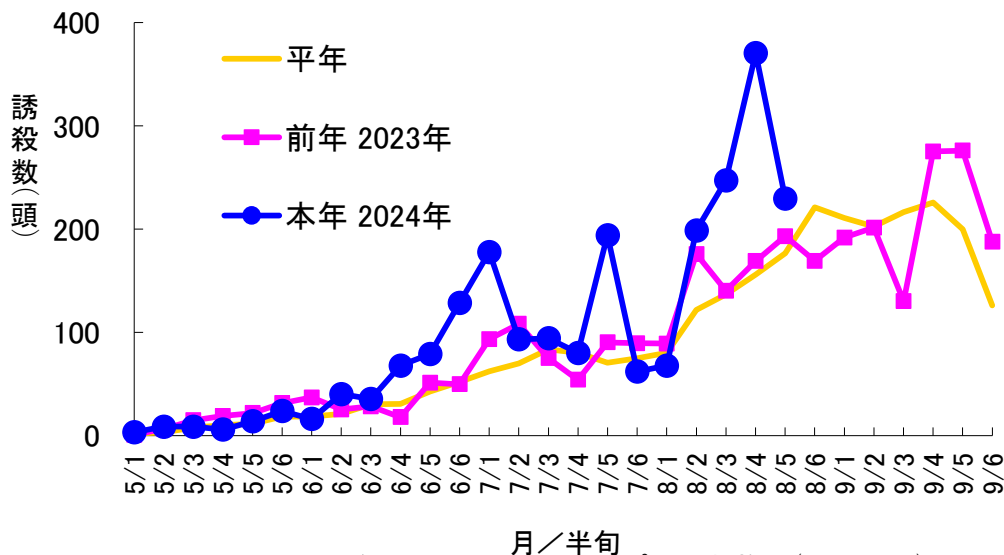


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

* 徳島市・石井町・阿波市・吉野川市の7地点平均

オオタバコガ (令和6年7月2日付で注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、第4半旬以降に誘殺数が増加している。誘殺数のピークは平年より2週間程度早くなっている(図3)。
- (2) 8月第6半旬の夏秋ナスにおける巡回調査では、産下卵の発生圃場率が12.5%、100葉当たりの産下卵率が0.1%と、平年(26.9%、0.4%)に比べてやや低い。また、幼虫による被害果実の発生圃場率が25.0%、被害果率が0.6%と、平年(7.7%、0.2%)に比べて高い。
- (3) 高松地方気象台が8月29日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

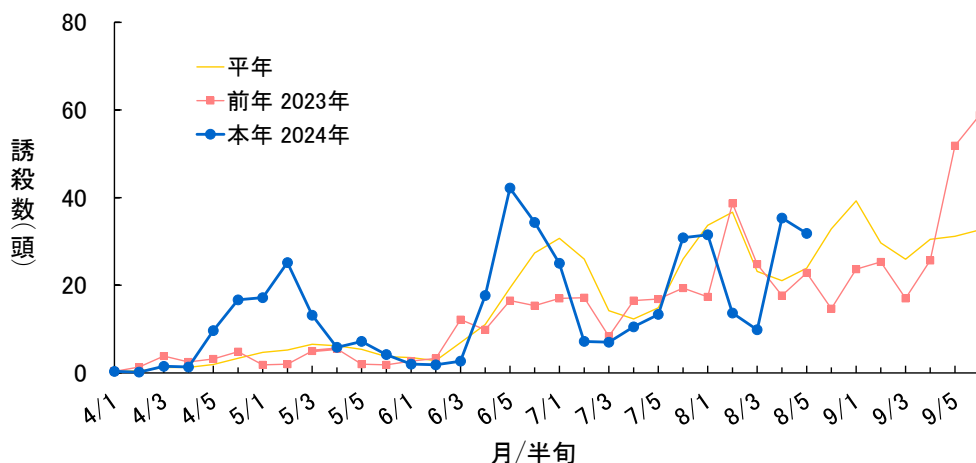


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の6地点平均

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 3) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。